

継続を基本とした OS Gears OS

清水 隆博^{1,a)} 河野 真治^{2,b)}

概要：継続を基本とする C と互換性のある言語、Continuation Based C (CbC) を用いて OS の実装を考案した。状態遷移単位で OS の処理を実装することで、処理の入出力が明確化され、定理証明支援系に適した表現形式で処理が記述可能である。ここでは現在 CbC を用いて開発している OS、GearsOS についての実装及び今後の展望について考察する。

キーワード：システムプログラミング, CbC, 軽量継続, OS

1. 証明可能な OS

コンピュータ上で動作するあらゆるソフトウェアや資源を管理する OS は、高い信頼性が保証されるべきである。信頼性の保証にはテストプログラムを用いた検証や、形式手法を用いた証明を使う手法が存在する。頻繁に並行処理を行う OS では、テストを用いてバグを発見するのが困難である。そのため、形式手法的なアプローチを用いて OS の信頼性を保証したい。現在開発している GearsOS は、継続を基本とする言語 Continuation Based C (CbC) で実装されている。

参考文献

- [1] 光希宮城, 優 桃原, 真治河野: Gears OS のモジュール化と並列 API, 技術報告 11, 琉球大学大学院理工学研究科情報工学専攻, 琉球大学大学院理工学研究科情報工学専攻, 琉球大学工学部情報工学科 (2018).
- [2] 並列信頼研究室: CbC_gcc, 琉球大学 (online), available from http://www.cr.ie.u-ryukyu.ac.jp/hg/CbC/CbC_gcc/ (accessed 2018-11-

21).

- [3] 並列信頼研究室: CbC_llvm, 琉球大学 (online), available from http://www.cr.ie.u-ryukyu.ac.jp/hg/CbC/CbC_llvm/ (accessed 2018-11-21).

¹ 琉球大学大学院理工学研究科情報工学専攻

² 琉球大学工学部情報工学科

a) anatofuz@cr.ie.u-ryukyu.ac.jp

b) kono@ie.u-ryukyu.ac.jp